



新年のご挨拶



理事長
上田 清 (大和郡山市長)

あけましておめでとうございませう

組合員の皆さまにおかれましては、すこやかなる新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日本の社会保障制度は現在、「混沌」ともいえる状況にあります。社会保障給付費が増大の一途をたどるなかで、国はさまざまな改革に取り組んでいます。しかし、一方で施策実施に伴う混乱が生じているのも事実です。

たとえば昨年4月、75歳以上を対象とする長寿（後期高齢者）医療制度と65～74歳の前期高齢者医療制度がスタートしましたが、高齢者医療のあり方や保険料納付に関して国民から批判の声が上がっており、すでに「廃止か改正か」が検討されています。

一方、高齢者医療財政については、現役世代が長寿（後期高齢者）医療制度の財源の約4割を支援するとともに、前期高齢者医療制度に財政調整金を支払うこととなりました。そのため当共済組合の財政は一段と厳しさを増しています。

また、年金については、従来から厚生年金との一元化が議論されていますが、その間に年金記録の問題が明らかになり、年金制度そのものへの国民の不信が広がっています。

このような多事多難の折に理事長を務めるものとして、重責を痛感するとともに、いっそうの努力を心に誓っております。格別なご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末尾ながら、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



職員側代表理事
辻本恵則 (東吉野村)

あけましておめでとうございませう

皆さまにおかれましては、つつがなく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の私たちを取り巻く職場の情勢は依然と厳しく、財政難を理由とした人員削減と賃金据え置き、あるいは基本給独自カットなど、苦渋の選択を迫られる状況にありました。このあたりを当組合もまともに受け、一昨年に比べて組合費歳入減となっております。

こうした事態ではありますが、昨年から特定健診・特定保健指導が始まりました。「メタボリック症候群」を早期に発見し、糖尿病などの生活習慣病を予防しようというものです。従来から健診・保健指導に力を入れてまいりましたが、この新しい予防医療制度の実施に当たり健診受診率をさらに向上させるとともに、より充実した保健指導を提供できるように努めてまいります。

しかし、新制度の導入は組合財政に影響を及ぼすものです。高齢者医療にかかる納付金・支援金などの支出も含め、歳入状況とのバランスがとれるよう一層の努力が必要となります。当共済組合のより有効的な内部努力による予算計画と実行に努めていく所存です。

組合員の皆さまにおかれましても「生活習慣病による病は自らが克服する」を合言葉に、日ごろの健康づくりを習慣化してくださる事をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。